

長崎県植物誌ノート(8)

中 西 弘 樹

Hiroki NAKANISHI: Notes on the Flora of Nagasaki Prefecture (8)

ABSTRACT: Nine species, three varieties and two forms including eight alien plants which are newly found in Nagasaki Prefecture, and eight rare species are described in this paper. The distribution map of *Cissampelos insularis* in western Kyushu was illustrated. The new locality of *Lasianthus japonicus* var. *satumensis* is the northern limit of its distribution in Kyushu.

はじめに

本研究は長崎県のフロラの解明を目的とするもので、主として外山(1980)の「長崎県植物誌」および松林(1981)の「長崎県シダ植物誌」の目録に記されていない、いわゆる県新産の植物と、希産種の産地追加を記録する。前報に引き続いて、番号、種名、科名、産地、発見年月日、標本番号の順に記してある。

本報告をまとめるにあたって、標本をいただいた五島高校池崎善博氏、元長崎大学篠原裕志氏に厚くお礼申し上げる。

県新産の植物

外山(1980)および松林(1981)の目録に記載されていないもので、筆者が確認したものを記しておく、一部はすでに記録されたものもあるが、文献名と共に新たにあげておく。

新産の在来種

108. ヒメアシボソ *Eulalia viminea* (Trin.)
O. Kuntze var. *viminea* (イネ科)

諫早市富川町富川溪谷, Nov. 4, 1990,
(No.12680)

のぎがほとんどないことによって、変種のアシボソ (var. *polystachya*) と区別される。アシ

ボソと共に各地から報告されているが、外山(1980)には記載されていない。アシボソとはしばしば連続し、品種とする意見もある。

109. ジングウスゲ *Carex sacrosancta* Honda
(カヤツリグサ科)

諫早市富川町富川溪谷, Nov. 4, 1990,
(No.12691)

ナキリスゲに比べて全体繊細で、高さ約40cm, 果のうはやや滑らかで毛が少ない。すでに杉本(1973)は産地として対馬をあげているが、外山(1980)には記録されていなかった。

110. ホソバハンゲ *Pinellia ternata* Breitenbach f. *angustata* Makino (サトイモ科)

長崎市片淵町, Sept. 21, 1988, (No.12258)

カラスビシャクの小葉が線形になる品種である。本種の葉はしばしば変異し、広卵形のものを採集したこともある。

111. ユキヤナギ *Sporaea thunbergii* Sieb.
(バラ科)

諫早市富川町富川溪谷, Mar. 21, 1989,
(No.12418)

鑑賞用に栽培もされ、種子で容易に繁殖するためか、各地に野生化したものを見ることがある。本来の生育地は溪流の岩上であり、富川溪谷のものは自生のものと考えられる。

112. サツマルリミノキ *Lasianthus japonicus*

Miquel var. *satsumensis* Makino (アカネ科)

東彼杵郡東彼杵町千綿溪谷, Nov. 18, 1990,
(No12711)

ルリミノキに似ているが、枝や葉柄、葉裏脈上に毛が残ることで区別される。ただし、毛の多いものから少ないものまで変異は大きい。ルリミノキより南に分布し、本州からは報告されていない。県内はすでに伊藤編(1990)『長崎県の森林と樹木』に写真が載っている。

113. ホソバコンギク *Aster ageratoides* Turcz. var. *angustifolius* Kitam. (キク科)

東彼杵郡東彼杵町千綿溪谷, Nov. 18, 1990,
(No12705, 12708)

ノコンギクに似ているが、葉は細く線状皮針形または皮針形で、溪谷の岩上に生育し、固有の溪側群落を形成する。葉の幅はかなり変異するが、千綿溪谷には少なくない。葉がさらに細く、線形のものをタニガワコンギクと言うが、長崎県には産しないようである。

新産の帰化植物

114. ヒメモロコシ *Sorghum halepense* Pers. f. *muticum* Hubb. (カヤツリグサ科)

長崎市岩川町, May 10, 1989, (No12490)

地中海原産の帰化植物で、セイバンモロコシののぎのない品種である。各地に見られるものと思われる。

115. ハラン *Aspidistra elatior* Blume (ユリ科)

長崎市西町, May 12, 1988, (No12119) ; 佐世保市崎針尾, Jan. 5, 1989, (No12596)

鹿児島県黒島や種子島に自生する植物で、葉を料理の敷き物などに使うため、古くから栽培されてきた。今ではほとんど使われていないため、日本南部に野生化している。長崎でも人里近くの竹林や照葉樹林の縁などに見られる。

116. タマスダレ *Zephyranthes candida*

Herb. (ユリ科)

西彼杵郡野母崎町脇岬, Sept. 30, 1988,
(No12279) ; 松浦市志佐, Oct. 18, 1990,
(No12694)

南アメリカ原産の栽培植物であるが、人家近くの空き地などに野生化している。特に堤の斜面など草刈が行われている所では、他の植物との競争にも強く、絶えることがない。

117. ニラ *Allium tuberosum* Rottler (ユリ科)

西彼杵郡野母崎町脇岬, Sept. 30, 1988,
(No12280)

日本に自生している所もあるが、ふつう食用に栽培される。種子で簡単に繁殖することができるためか、県下には石垣などに野生化し、広がっている。

118. ミヤガラシ *Rapistrum rugosum* (L.) All. (アブラナ科)

西彼杵郡時津町継名, May 25, 1989,
(No19429)

欧州原産の帰化植物であるが、全国的に少ない。果実は2節に分かれ、上部のものが丸く膨らむのが特徴で、他のアブラナ科の帰化植物とは容易に区別できる。

119. カミヤツデ (ツウダツボク) *Tetrapanax papyrifer* K. Koch (ウコギ科)

長崎市花丘町, Dec. 5, 1988, (No12385) ; 北高来郡小長井町牧, Dec. 9, 1989, (No12584)

ヤツデを大形にした姿をしており、古く鑑賞用に渡来したものであるが、長崎県では野生化している所は珍しくなく、種子で容易に繁殖するため、しばしば斜面に純群落を作っている。寒さに弱く、年によっては冬に葉がすっかり枯れてしまうこともある。

120. オオキンケイギク *Coeopsis lanceolata* L. (キク科)

西彼杵郡時津町継名, May 25, 1989,
(No19428)

北米原産の帰化植物で、県内では新しく作られた道路の法面などによく見られ、しばしば群生する。5月の花期には美しい。

121. アカミタンポポ *Taraxacum laevigatum* DC. (キク科)

長崎市大黒町, Dec. 23, 1989, (No.12588)

欧州原産の帰化植物で、セイヨウタンポポに似ているが、一般に葉の切れ込みが深く、より市街地に多い。果実が赤褐色である点が決定的な特徴である。

希少植物の産地追加

75. リョウメンシダ *Arachniodes standishii* (Moore) Ohwi (オシダ科)

東彼杵郡東彼杵町千綿溪谷, Nov.18, 1990, (No.12709)

温帯性のシダで、本州ではスギ植林地などに群生し、ふつうであるが、県内では多良岳、雲仙岳をはじめ、長浦岳、八郎岳など産地は限られている。千綿溪谷にわずかに生育していた。

76. コキンバイザサ *Hypoxis aurea* Lour. (キンバイザサ科)

北松浦郡新魚目町番岳, July 29, 1976, (No.9543)

草原に生育する希な植物で、五島列島では初めての記録である。7月下旬に番岳を訪れた時、ちょうど黄色の花をつけていたので発見することができた。

77. ミヤマムギラン *Bulbophyllum japonicum* Makino (ラン科)

長崎市平間町滝の観音, Feb. 15, 1980, (No.10796)

樹皮上や岩上に着生し、群生する小型のランで、県内では外山 (1980) によると西彼杵郡琴海町長浦にのみ記録されている。滝の観音では溪谷の岩上に生育したが、長崎大水害 (1982年7月) 以後見ておらず、

消失したのかも知れない。

78. ミヤコジマツツラフジ *Cissampelos insularis* Makino (ツツラフジ科)

北松浦郡大島村二神島, Aug. 5, 1983, (No.11073); 西彼杵郡外海町大ひき島, Feb. 17, 1991, (No.12750)

本種の新産地については、すでに小値賀町美良島と福江市赤島から報告したが (中西1988)、さらに大島村二神島と外海町大ひき島で発見することができた。大ひき島には道路沿いや林縁部などに多産する。長崎県ではその他壱岐の若宮島、初山 (品川1977)、鷹島、福江島、阿値賀島に産する。本種は九州西回り分布を示し、山口県見島まで分布するが、不思議なことに九州本土には産せず、島嶼部に限られる。西九州における分布図を図1に示しておく。佐賀県の分布は馬場 (1981) を参考にした。

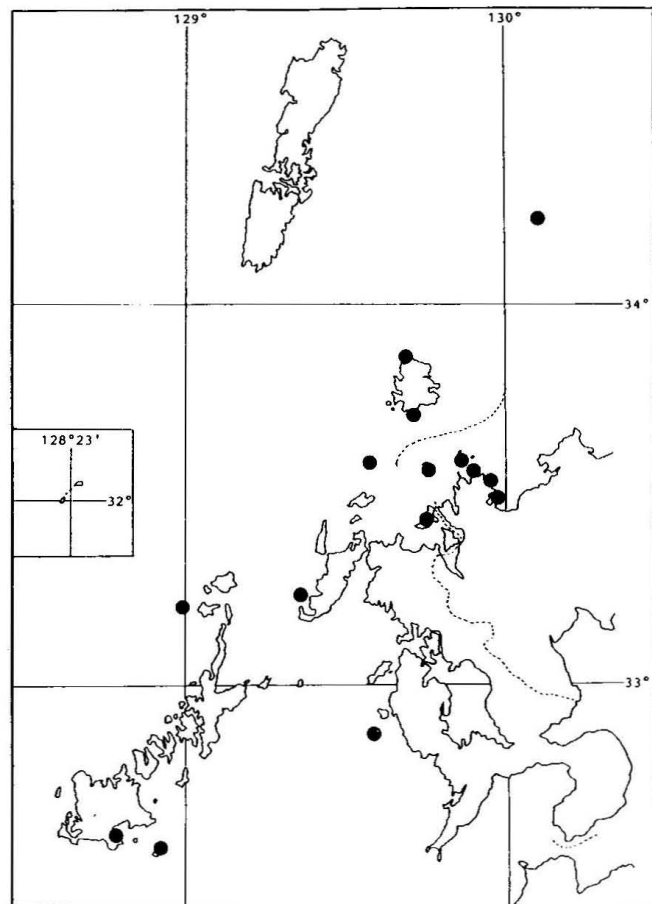


図1. 西九州におけるミヤコジマツツラフジの分布

79. コクサギ *Orixa japonica* Thunberg (ミカン科)

福江市崎山, Apr. 6, 1990, (No12695)

県下には広く分布, 山地に生育するが自生地は少なく, 五島列島では初めての発見である。上記の標本は池崎善博氏によって採集されたものである。

80. ウンゼントリカブト *Aconitum kiusianum* Nakai (キンポウゲ科)

南高来郡千々石町川床町, Nov. 7, 1990, (No12718)

和名のように雲仙岳周辺に産するが, 比較的海拔の高い所に生育する。上記の産地は篠原裕志氏によって発見されたもので, 最も低い産地であろう。

81. ニガキ *Picrasma quassioides* Bennett (ニガキ科)

長崎市弥生町, Dec. 7, 1990, (No12720), 佐世保市牧島, Jan. 12, 1991, (No12749)

温帯性の樹木で, これまで多良岳, 国見岳, 大村市, 福島町の産地が記録されているが, (外山1980), 上記の地で発見することができた。佐世保市牧島にはかなり大きな個体があり, それから種子で繁殖したと思われる小個体が多く見られた。

82. ノアサガオ *Pharbitis congesta* Hara (ヒルガオ科)

北高来郡飯盛町向島, Dec. 15, 1990, (No12728, 12729)

五島をはじめ, 本土側では西彼杵半島, 南高来郡千々石町などに点々と産地があるが, 少ない。向島ではかなり大きな群落で, 林縁を被っている。花はよく咲くが, 結実は少ないらしく, 栄養的に繁殖している。

参考文献

馬場胤義 (1981): 佐賀県植物目録. 266pp. 佐賀植物友の会, 佐賀.

伊藤秀三編 (1990): 長崎県の森林と樹木. 157 pp. 長崎県, 長崎.

松林文作 (1981): 長崎県シダ植物誌. 104pp. 長崎出版文化協会, 長崎.

中西弘樹 (1988): 長崎県植物誌ノート(2). 長崎県生物学会誌33: 11-15.

品川鉄摩 (1977): 壱岐高等植物目録. 壱岐の生物 (長崎県生物学会編) pp. 115-155.

杉本順一 (1973): 日本草本植物総検索誌II 単子葉篇. 630pp. 井上書店, 東京.

外山三郎 (1980): 長崎県植物誌. 321pp. 長崎県生物学会, 長崎.

(なかにし・ひろき; 〒850 長崎市弥生町666 長崎女子短期大学)